

日本サッカー協会公認 C 級コーチ養成講習会の開催

今川正浩^{*1}

Holding of the Football Association of Japan official recognition
Class C coach training class

by

Masahiro Imagawa

1. 日本サッカー界の現状

2014 年、第 20 回ワールドカップ（ブラジル大会）では、ドイツ代表チームが 4 度目の優勝を果たした。日本代表チームは、予選リーグ（コートジボワール、ギリシャ、コロンビア）で、1 分け 2 敗という結果で決勝トーナメントに進出することができなかった¹⁾（表 1）。

日本代表チームは、1998 年から 5 大会連続でワールドカップ出場を果たし、2002 年（日韓共催大会）と 2010 年（南アフリカ大会）には決勝トーナメントに進出、ベスト 16 という結果を残してきた。しかし、今大会においては決勝トーナメントには進出できず、目標であった初のベスト 8 進出を果たすことはできなかった。

予選リーグにおける日本代表チームは、3 試合を通じて勝利することができず、「世界との差」を痛感させられた。次のワールドカップに向けて、あるいは 10 年後、20 年後に向けて、中長期的な

代表チーム強化策が必要になる。

一方、優勝したドイツ代表チームは、2000 年に開催されたヨーロッパ選手権において、予選リーグで敗退した。その後、ドイツでは 2002 年のワールドカップでの復活に向けて、「代表チームの強化」、さらに 10 年後に世界のトップに戻るために「育成年代の指導」と「指導者養成」に重点をおき、取り組んできた（2014 年 8 月 17 日、神奈川県二宮市にて開催された元ドイツ代表、現ドイツ・ウオルスブルグ強化部長、リトバルスキー氏講演より）。日本においてもサッカーにおいて代表チームの強化を長期的に考えるうえで、特に育成年代の「指導者養成」事業の展開が必要不可欠であると考えられる。

2. 日本サッカー協会（JFA）における指導者養成事業

現在の JFA における指導者養成事業は、以下の通りである。

* 1 東海大学体育学部競技スポーツ学科

表1 ワールドカップ (2014) 予選Cグループ 結果¹⁾

順位	チーム	勝ち点	勝ち	引き分け	負け	得失点差
1	コロンビア	9	3	0	0	7
2	ギリシャ	4	1	1	1	-2
3	コートジボワール	3	1	0	2	-1
4	日 本	1	0	1	2	-4

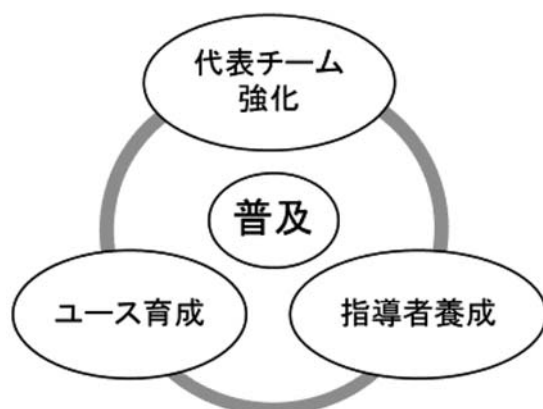


図1 日本サッカー協会 (JFA) の取り組み：技術委員会の役割, 4本柱の強化²⁾

1) JFA 技術部における指導者養成事業の位置づけ

JFA は、理念、ビジョンについて、下記の点を掲げている²⁾。

[理念]：サッカーを通じて豊かなスポーツ文化を創造し、人々の心身の健全な発達と社会の発展に貢献する。

[ビジョン]

- ・サッカーの普及に努め、スポーツをより身近にすることで、人々が幸せになれる環境を作り上げる。
- ・サッカーの強化に努め、日本代表が世界で活躍することで、人々に勇気と希望と感動を与える。
- ・常にフェアプレーの精神を持ち、国内の、さらには世界の人々と友好を深め、国際社会に貢献する。

これらの理念とビジョンを踏まえて、JFA の取り組みの中で技術委員会が担う役割として、「代表チームの強化」「ユース育成」「指導者養成」

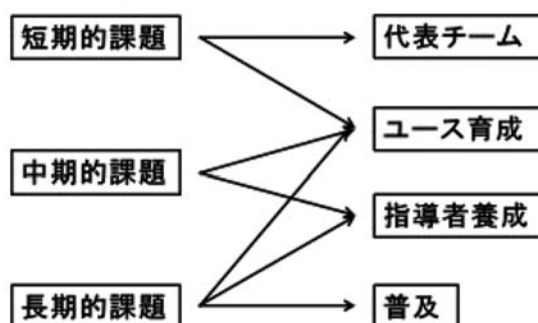


図2 日本サッカー協会 (JFA) の取り組み：短・中・長期的課題の克服²⁾ (一部改変)

「普及」の4本柱が掲げられている²⁾。さらにこの4本柱のうち、短期的には「代表チームの強化」と「ユース育成」、中期的には「ユース育成」と「指導者養成」、長期的には「ユース育成」、「指導者養成」及び「普及」が中心的な課題となることが示されている²⁾ (図1)。中でも「指導者養成」は、中・長期的課題として挙げられ、非常に重要な役割を担っていると言える (図2)。これまでも日本サッカー協会は、サッカー指導者養成制度を展開し、優秀なサッカー指導者の養成に取り組んできた。

2) 日本サッカー協会公認指導者ライセンス制度について

日本サッカー協会は公認サッカー指導者を制度化している³⁾ (図3)。各ライセンスの養成目標は図4の通りである²⁾。

現在、各ライセンスを所持する指導者登録数は、S級 386 名、A級 1,268 名、B級 3,756 名、C級 27,601 名、D級 39,602 名となっている (2014 年1月の時点)⁴⁾。また、JFA 公認指導者ライセ

ンスは日本体育協会公認コーチと関連しているものもある³⁾。特に、公認C級資格は、「ユースの育成」に大きく関わるものであり、この年代(U-12)で多くの子ども達にサッカーを経験させ(普及)、サッカーにおける良い習慣を身につけさせることが非常に重要である。さらに、この広く確かな土台づくりは、質の高い選手を育てること

になり、代表チームの強化へもつながると言える。

このように、大切な年代に対するサッカー指導者を育成するための「JFA 公認C級コーチ講習会」は全国各地で開催されている。その内容はサッカーの指導者としての入門課程ではあるが、育成年代、特にゴールデンエイジ(U-12)の子供たちの土台作りのために、どのような視点や方法

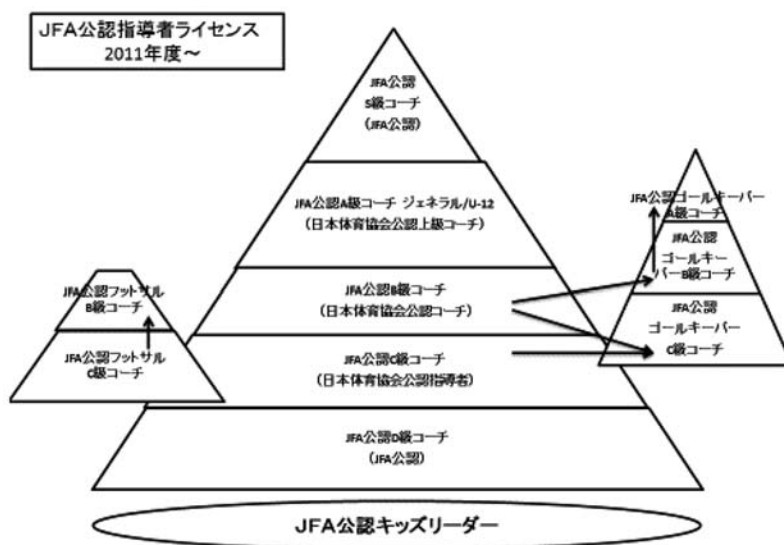


図3 日本サッカー協会（JFA）の取り組み：公認指導者ライセンス制度³⁾

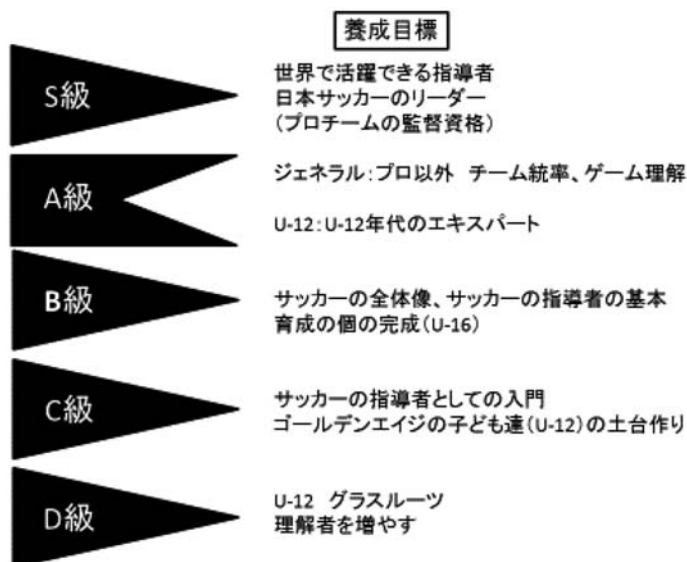


図4 日本サッカー協会（JFA）の取り組み：公認ライセンスの養成目標²⁾（一部改変）

で指導を行なうのかなどを中心とした内容である²⁾。

3) 神奈川県サッカー協会 (KFA) の指導者養成事業

公認指導者資格のうち、C 級と D 級は各都道府県のサッカー協会が中心となって指導者養成事業を展開している。神奈川県における 2013 年度、2014 年度の指導者養成事業と開催数は以下の通りである。

(1) 神奈川県の指導者養成事業

2013 年度実績

JFA 公認 C 級コーチ養成講習会 3 コース

JFA 公認 D 級コーチ養成講習会 6 コース

2014 年度 (予定も含む)

JFA 公認 C 級コーチ養成講習会 4 コース

JFA 公認 D 級コーチ養成講習会 8 コース

4) 東海大学で行なわれた JFA 公認 C 級コーチ養成講習会の詳細

この養成講習会は、大学や専門学校の学生を対象に、教育機関での指導者養成も行なわれている。以下には、東海大学で行なわれた C 級指導者養成講習会を例に、講習会の内容と実施にあたって留意した点を示した。

(1) 期日、場所

2014 年 7 月 19 日 (土) ～8 月 2 日 (土)

東海大学湘南校舎 高間原グランド

15 号館第 1 会議室、第 2 会議室

(2) スクールマスター (講習会責任者／資格授与者)

今川 正浩 (JFA 公認 S 級コーチ, JFA 公認チーフインストラクター)

(3) 受講生

人数 21 名 (男性 20 名, 女性 1 名)

内訳 社会人 13 名, 学生 7 名,
その他 1 名

指導対象 社会人・大学生 3 名, 高校生年代
3 名, 中学生年代 3 名
小学生年代 11 名, なし 1 名

(4) コース概要ならびにスケジュール

講義, 実技などのコース概要は, 下記の内容で

ある²⁾。

[講義内容]

ガイダンス, ゴールキーパー, 発育発達と一貫指導, 技術戦術理論 I・II・III
コーチング法 I・II・III, 指導者の役割 I・II, 女子, 審判, メディカル
指導実践ガイダンス, ガイダンス (今後に向けて)

[実技内容]

ゲーム・コーディネーション, ゴールキーパー, ボールフィーリング
パス&コントロール, キック, シュート, ボールを奪う, ポゼッション①
ポゼッション②

[その他]

テーマ解説, 実技振り返り, 指導実践振り返り, グループワーク, 事前学習, 復習
(指導実践) 受講生同士 1 回, 小学生を指導 1 回の計 2 回
(筆記試験)
(通信教育) キッズ (U-6, U-8, U-10) 指導ガイドライン, U-12 指導指針
これら 4 冊を読んでレポート提出

3. 講習会実施にあたって留意した点

1) 楽しむ気持ちを持つ

選手が「サッカーが楽しい」「サッカーをしたい」という気持ちになるためには、その環境、時間を楽しむ気持ちが必要である。「I play sports」の「play」の語源は、遊ぶ、競技するとなっている。神奈川県サッカー協会の理念の中にも、「プレイの精神 (遊び心) を大切にしよう!」「I PLAY SOCCER!」まずサッカーを楽しみましょう! 楽しんでこそ、サッカーが好きになり、上手くなると掲げられている⁵⁾。

スポーツの楽しさを追求する上で、「遊ぶ心」すなわち楽しむ気持ちは、必要である。楽しむという言葉、感覚が、スポーツの世界で上手くなる、強くなるうえで適切でないという考え方もあるが、楽しいからこそ、続けていこうという気持ちが芽生えてくると考えた。

受講生には、指導の際に選手と接することに楽

しみを感じて欲しかった。そのために、インストラクターとして私自身が受講生と接することに楽しさを感じて取り組むよう心がけた。実際に、受講生と「指導」について、ディスカッションをかわす時間は、私自身勉強になり、楽しさを感じることができた。インストラクターが楽しさを感じることによって、受講生にもこのような気持ちをもつことの重要性を、感じてもらいたいという思いからであった。

2) 自立を促す（判断、決断が出来るようにする）

サッカーという競技は、プレイの途中でタイムをかけることができないため、本来は自分で、判断、決断をしなければならない。しかし、サッカーの現場（練習、試合）において、指導者が選手のプレイの判断を奪うような指導をしている場面が見受けられ、そのような指導を繰り返し受けていると、選手は自分で判断、決断ができなくなり指示を待つようになると考えられる。あるJFAのインストラクターは「日本のサッカー少年団が海外キャンプの練習試合のピッチで起きている問題に対して、海外の選手は自分たちで解決しようとするが、日本の選手はベンチを見てコーチの指示を仰ごうとする」と指摘している。

そのことから、本コースの実技の指導においても、受講生の判断を尊重しインストラクターから答えを押し付けることがないよう留意した。プレイする前に指示するのではなく、プレイ後になぜそうしたのか、なぜそういった判断を下したのかを、問いかけるよう心掛けた。そうすることで、様々な問題に対して自己解決していけるよう、受講生自身の「気づき」を待つこととした。その際、気づいてほしいポイント（サッカーの目的など）を押さえ、判断基準を明確にしておくことが非常に重要である。指導者が指導のポイントを押さえ、選手の出した判断、決断を尊重しながら、選手自身に判断の責任を持たせることで、選手の成長につながると考える。

3) トライしようとする姿勢を認める、褒める

日本のスポーツ界の指導においては、「欠点指摘型」の指導が多いと感じることがある。また、

成功、失敗といった結果だけを見て、成功を褒め失敗を叱るといった場面も見受けられる。このような指導は、指導者にしてみれば、この選手のこの部分を良くしたいという、愛情表現であるが、選手の立場から考えれば、「これができていない」「あれができていない」と指摘されるため、失敗を恐れチャレンジできなくなってしまう。失敗を経験せずに強くなったチームや上手くなった選手は、いないだろう。成長につながる失敗、トライしようとする姿勢を認め、褒めていくことが、成長につながる。しかし、失敗のままで良いということではなく、どのようにして成功に結びつけていくかを考えさせることが必要である。

4) 学ぶ姿勢を持ち続ける

何事においても、向上する気持ちを持つことが重要である。インストラクターとして指導する立場であれば、受講生以上に学ぶ姿勢が必要である。

オシム氏（元日本代表監督）は「指導者以上に勉強している選手はいる、指導者の経験が一番であるという認識は間違っている」、また、元フランスの代表監督のロジェ・ルメール氏は、日本のサッカーカンファレンスにおいて「学ぶことをやめたら、教えることをやめなければならない」と発言している。これらの点からも、私自身が他のインストラクターあるいは受講生と接していく中で、絶えず学ぶ気持ちを持ち続けながら取り組むよう心掛けた。その結果、受講生の最後まで学び続けようという気持ちが行動に表れるようになったと感じた。

本講習会の実技中、Bさん（55歳～受講生最年長）は、接触プレイで怪我（骨折）を負った。翌日スタート時の講義で意志を確認したところ、「受講を続けたい」ということであった。怪我の具合からは、やめさせたほうが良いとも考えたが、まずは本人の気持ちを優先した。Bさんは、怪我後の受講も全力で取り組み、実技においてはコンタクトプレーも行うなど心配される面もあったが、無事に最後までやり遂げた。Bさんのサッカーを勉強し、チームや選手のために還元したいとの想いと取り組む姿勢は周りの受講生にも良い影響を及ぼすこととなり、私自身も大変勉強させられた。

5) 参考とした書籍等

指導の留意点を考える上で、非常に参考となる本があった。池上正氏（京都サンガF.C. ホームタウンアカデミーダイレクター）の著書「サッカーで子供をぐんぐん伸ばす 11 の魔法」である⁶⁾。その中で、池上氏は指導する上で留意するポイントとして、以下の 11 項目を挙げている。

- ・肯定する 「だからダメなんだよ」 抽象的な言葉で叱ってばかりいませんか？
- ・上達する 「悔しくないのか！」 負け始めると怒っていませんか？
- ・楽しませる 「サッカーを最優先しろ！」 子供に押し付けてはいませんか？
- ・気づかせる 「ちゃんと話を聞きなさい！」 いつも世話を焼いていませんか？
- ・考えさせる 「右へパス」「そこでシュートだ」試合の間中、子供をあおっていませんか？
- ・進化する 「今までこうやってきたんだから」古い概念のまま立ち止まっていませんか？
- ・夢を持たせる 「プロになりたいんだよね？」子供より先に自分の望みを語っていませんか？
- ・余裕を持たせる 「勝ちたいという気持ちが足らなかった」敗戦を精神論で片づけていませんか？
- ・自立させる 「なくすと困るから」電車の切符を大人が持ってあげていませんか？
- ・和をつくる 能力別にチーム分けするのが良いと思い込んでいませんか？
- ・問いかける 「何やってんだ！」 大量リードされたら怒鳴ってませんか？

この本では、子供たちの指導において、子どもの判断や決断を尊重することの重要性が説かれている。選手への愛情が、ついつい「転ばぬ先の杖」となり、選手が判断し、決断する前に指導者が動いてしまうことがある。これも、選手への愛情の一つだとも考えられるが、選手自身が逆境に立った時に自己解決していける人間になるためには、自分で判断し、決断する経験が必要である。これは、サッカーの指導のみならず、子育てにおいても参考とすべき点が非常に多い。この本は、

私が指導者養成講習会における受講生との接し方を考える際に、非常に参考になった。

4. 指導に留意した結果、もたらされた効果

講習会終了後の受講生アンケートには下記のような感想が述べられた。

- ・全体的に楽しくできました。
- ・この受講を通して、またサッカーが好きになりもっとサッカーを知りたくなった。
- ・もっと早く、この講習会を受講するべきであった。指導者としてのこれまでの 5 年間が、選手にとってもっと実りあるものとなる可能性は十分にあったと考える。
- ・今まで知らなかった、あるいは気づいていなかったことへの「発見」を与えてもらった。
- ・何事にも学ぶ姿勢を持ち続けたいと思いました。
- ・様々な人の考えを聞くことが出来た。
- ・指導の難しさ、楽しさを改めて感じることで、今後もサッカーに関わっていきたいと強く思いました。
- ・今回の講習会で、子供たちに対する接し方の考えが確実に変わりました。育成年代への接し方に自信が持てました。これから、現場で実践していきます。
- ・「指導実践」では、自分の良い部分を褒めてもらい、悪い部分は気づかせてもらうことができ、自分が指導者として大きく成長出来るきっかけになったと感じている。
- ・インストラクターの方々のオープンマインド、常に学ぶという姿勢は、とても見習うべきだと感じています。
- ・育成年代を教えるにあたって、保護者とのコミュニケーションの方法などについても聞いたかった。
- ・受講生同士で試合を行い、お互いの親睦を深めたかった。
- ・指導実践において、過度のゲーム参加は自分の指導にも悪影響を及ぼす部分があると感じました。

JFA 公認 C 級コーチ養成講習会のカリキュラ

ム内容は、JFAより定められている。しかし、インストラクターの伝え方により、指導における留意点についても受講生の受け止め方は異なる。今回、インストラクターである私自身が、選手の「自立」に向けて「気づきを促す」や「トライしようとする姿勢を認める、褒める」といった点を講習中にも留意したことから、受講生にとっても今後の指導に向けて参考となる点があったことを示す内容が、アンケートに見受けられた。

一方、開催時期やスケジュールの立案、カリキュラム内における指導に活かせる内容、指導実践の実施方法などについては、「実技の時間が夜であれば、大変助かりました」「夏の一番暑い時期に実技であれだけ動くことがとても大変でした」「プレイの分析において、実際に日本代表のゲームをインストラクターが分析してもらえるとわかりやすかった」「可能であれば、仮定の改善点に対してトレーニング計画を立てるところも見ていただければ、良かったと思います」「指導実践で、ゲームだけでなくトレーニングメニューの実践もしてみたかった」などの意見が寄せられ、受講生にとってより良い講習会にしていく上で、今後検討していくべき課題であると考えている。

5. 今後に向けて

今回、指導者養成コースをスクールマスター、インストラクターとして携わり、改めて勉強になる点が多々あった。

JFAの取り組みである「代表チームの強化」「ユース育成」「指導者養成」「普及」という4つの柱を中長期的に考えると、「指導者養成」の持つ意義は非常に重要である。指導者として、「気づきを促す」「チャレンジ、トライしようとする姿勢を認めて褒める」といったことに留意してい

くことが、ピッチ上で起きる問題点に対して、選手が自己解決する能力を上げていくことにつながり、それが、人間としての自立につながっていくと考える。指導者養成事業において、インストラクターとしてこのような点を伝えることで、受講した指導者からも多くの選手に発信がなされていくことが期待される。JFAの指導者養成部は、このような「気づき」を待ち、「自立を促す」ことにつながる指導を、チーフインストラクターならびにインストラクターを通じて、全国の指導者に発信している。

今後は、私自身が本講習会での課題を改善していくとともに、受講生のコーチングの変化や上達、受講生からコーチングを受けている選手たちの変化などを追いかけてながら、日本サッカーの発展に寄与していきたい。

参考文献

- 1) 公益財団法人日本サッカー協会ホームページ
http://www.jfa.jp/samuraiblu/worldcup/2014/schedule_result/
- 2) 公益財団法人日本サッカー協会(2012) JFA 公認C級コーチサッカー指導教本
- 3) 公益財団法人日本サッカー協会(2013, vol. 54) Technical news, pp. 10
- 4) 公益財団法人日本サッカー協会(2014, vol. 60) Technical news, pp. 10
- 5) 一般社団法人神奈川県サッカー協会ホームページ
<http://www.kanagawa-fa.gr.jp/kfa/vision.htm>
- 6) 池上 正(2008) サッカーで子どもをぐんぐん伸ばす11の魔法, 小学館